

銀賞

設備に興味を持つ大切さ

マツダ 株式会社 本社工場

富田 雄樹

私が働く工場では、鋳鉄鋳物の鋳造部品であるステアリングナックルを作っております。砂で作った鋳型の中に、高温の溶けた鋳鉄を注湯し冷えたところで型ばらし、鋳肌を研掃し、鋳型間にできた製品外のバリ除去を行い、1台1台目視にて外観チェックし品質保証を行い後工程お客様へお届けしております。

バリを除去する仕上げと品質チェックを行う、品質保証工程を担当しており、型ばらしされた直後の製品は砂とバリが付着しているため、これをショットブラストという設備で砂を落とし、サイジング・バリンダーという設備にてバリを除去し、超音波検査・探傷装置で内部、目視で外観の品質保証を行います。

私の自主保全サークル活動ではロボットと作業者が、グラインダーを使用して製品の内側のバリなど研掃仕上げを行う、バリンダー研掃機という設備を担当しております。仕上げ工程の最後作業であり、後の品質保証に大きく影響していく設備です。私は、仕上げ・品質保証工程の担当になってから後工程（お客様）に不具合製品を流さないと心に決めており、そのために設備の点検は、かならず現場現物で行い日々決めた清掃を実施し正常異常の変化に気づける環境にして、設備の不調による不具合製品を無くす取り組みを実践しています。

普段、ミーティング等で職長・補佐・班長から「設備に興味を持って操作しよう」とアドバイスをしてもらっていました。以前の私はそのアドバイスの意味が分からずにいました。ある時製品の研掃面状態が悪いという話を聞き、サークルリーダーと一緒に確認したところ、設備から異音が聞こえていることに気づき、リーダーに聞いたところ備え付けられている砥石の回転がブレて、蛇行している状態でした。場所の特定と要因もすぐ現場現物で説明してもらえたため、なぜ詳しいのか聞くと、「以前、同じ事象が起きたことがあり、その時に保全の方からくわしく聞き要因を追及していたから」と教えてもらいました。この事例を定量化して基準書に落とし込むことができれば設備の不調で不具合製品を出さないという私の想いも実現出来ると思いました。リーダーや先輩の知識・技能を勉強するためメンテナンス時間を作ってもらい、定量化するための道具と一緒に調べ点検箇所の相談、自分とリーダーの想いのすり合わせをし

ながら活動していきました。

苦しい時もありましたが、知識が増える事や技能が向上する喜び、誰かと一緒に活動する楽しさ、対策するたびに成長する自分と設備そういった部分から「設備に興味を持って操作しよう」という言葉の意味が分かり始めました。設備管理活動を通じて私が大事だと気づけたことは、「現場・現物・現実」と要因分析です。不具合現象が発生した時かならず自分自身で確認し、なぜそのような現象が起こったのかを、疑問を持ち要因を深掘りし対策して定量化へつなげることが大事だと思います。現在サブリーダーとして活動していますが、メンバーにも疑問を持つこと・定量化の大事さ、設備に興味を持つ事の大切さを感じてもらえるようアプローチをして、私自身やメンバーの成長を感じながら楽しく活動できるサークルを作っていこうと思います。